



スポーツ庁
令和6年度第2回地域の身近なスポーツの場づくりに関するオンラインセミナー
2025.1.31

富山市総合体育館Rコンセッション事業

富山市市民生活部スポーツ健康課
課長代理 関野 大志郎

TOYAMA CITY

富山市の概要

■2005年4月1日に、1市4町2村の合併により新『富山市』誕生 ※合併20周年！

- ✓人口は、富山県全体の約4割の413,938人(2020年度国勢調査)
- ✓面積は、富山県全体の約3割の1,241.74km²
- ✓海拔0m(富山湾)から2,986m(水晶岳)までの多様な地形
- ✓医薬品、電子部品、機械関連産業等の製造業を中心としたものづくり産業が集積
- ✓2024年度一般会計予算額は、約1,758億円



■2025年1月7日に、アメリカのニューヨーク・タイムズが「2025年に行くべき52か所」を発表し、『富山市』が選定されました！



富山市が重点的に取り組んできた政策

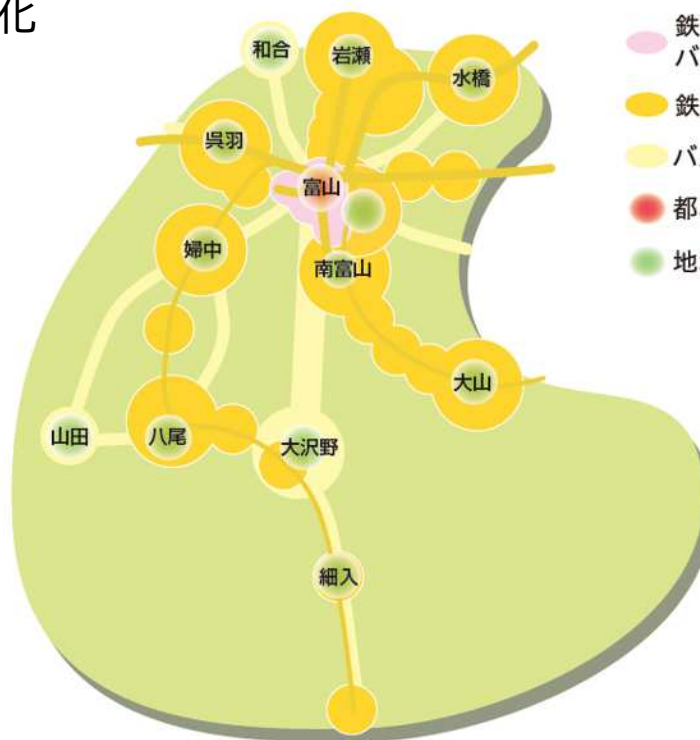
■コンパクトなまちづくり:富山市が目指す『お団子』と『串』の都市構造

✓富山市が進める公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり(コンパクトシティ)は、既存の鉄軌道やバス等の公共交通を生かしながら、さらなる活性化を図るとともに、駅やバス停の徒歩圏での居住と生活に必要な機能の集積を促進し、徒歩圏(お団子)を公共交通(串)でつなぐことにより、自動車を自由に使えない市民も、日常生活に必要な機能を楽しむ生活環境を形成する、徒歩圏(お団子)と公共交通(串)から成る都市構造を目指すもの

<実現するための3本柱>

- ①公共交通の活性化
- ②公共交通沿線地区への居住推進
- ③中心市街地の活性化

<概念図>

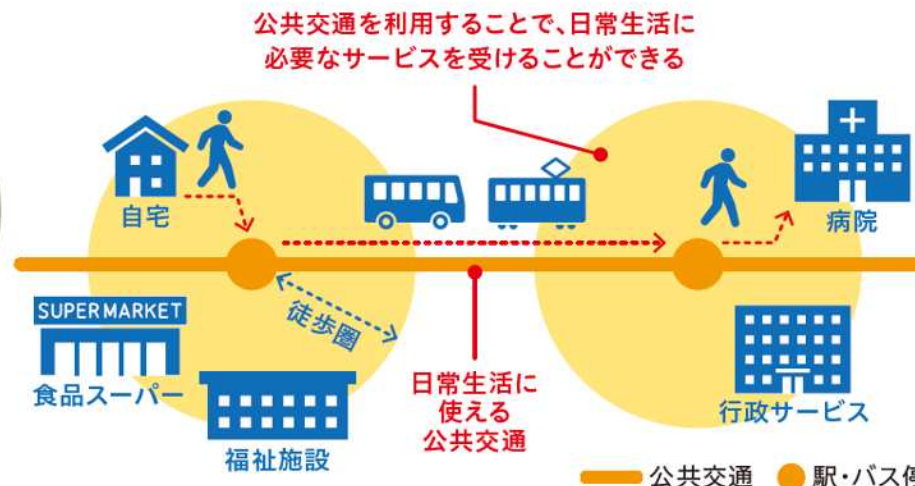


- 鉄道・路面電車・バスサービス
- 鉄道サービス
- バスサービス
- 都心
- 地域生活拠点

富山市が目指すお団子と串の都市構造

串:一定サービス水準以上の公共交通

お団子:串で結ばれた徒歩圏



1 公共交通の活性化



■富山ライトレール



■市内電車環状線化



■路面電車南北接続

■JR高山本線・地鉄不二越・上滝線活性化

■おでかけ定期券 など

2 公共交通沿線地区への 居住推進



■都心地区・公共交通沿線地区での住宅供給や新築・購入を支援



■公共交通指向型開発
(改札新設、民間連携開発)

3 中心市街地の活性化



■グランドプラザ



■TOYAMAキラリ

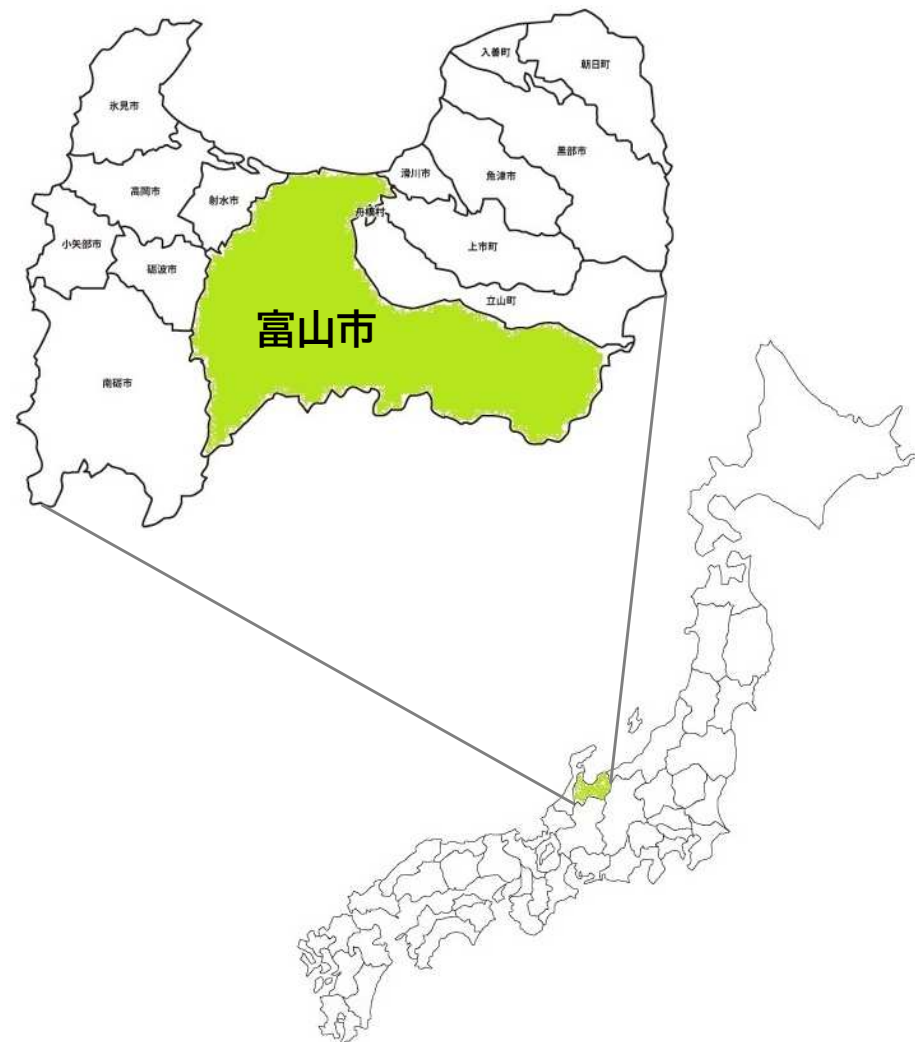


■トランジットモール社会実験

富山駅の動き

■2015年3月14日に北陸新幹線の開業

- ✓北陸新幹線は、上信越・北陸エリアを經由し、東京-大阪間を結ぶ計画の新幹線
- ✓長野新幹線として東京-長野間が先行して部分開業し、2015年3月14日に長野-富山・金沢間が開業
- ✓**東京-富山間は、最短2時間8分**(約60分短縮)





■2020年3月21日に富山駅の路面電車南北接続開通

- ✓1908年(明治41年)に富山駅が現在地で開業して以来、鉄路によって市街地が駅の南北に長年に渡り分断
- ✓2015年3月の北陸新幹線開業にあわせ、富山駅南側の富山軌道線と北側の富山港線を新幹線・在来線高架下に新設する停留所で接続することにより、『富山市民100年の夢』である南北市街地の一体化が実現



富山駅北エリアの動き

■様々な施設整備と民間投資の活発化

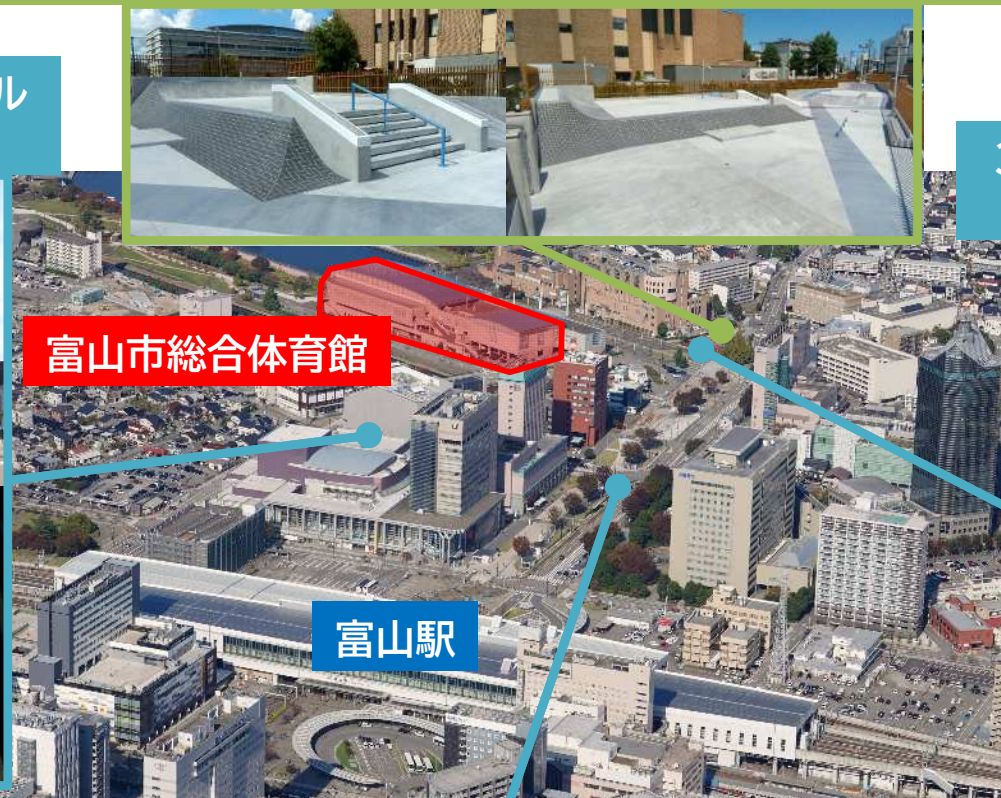
NiX Urban Skate Park 2023年8月オープン ※民間投資

オーバード・ホール/中ホール
2024年7月オープン



富山市総合体育館

富山駅



3x3バスケットボールコート
2021年3月オープン



富山市ブルバール広場 2024年3月再整備完了

事業の背景と概要

- ✓富山市総合体育館については、これまで指定管理者制度により(公財)富山市スポーツ協会が維持管理・運営を行い、スポーツ・レクリエーションの中核施設として市民そしてプロスポーツ等のイベント開催などに広く利用されてきたが、竣工から20年以上が経過し、**施設の老朽化や管理費の高止まりへの対応が課題**となっていた
- ✓また、富山駅北エリアでは、2015年の北陸新幹線開通や2020年の富山駅路面電車南北接続開業などを受けて、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)の中ホールや富山市ブルバール広場の整備が進み、**まちづくりの大きな変革期**を迎えている
- ✓富山市が進めるコンパクトシティ戦略のさらなる推進に向けて、富山市総合体育館を中心市街地における**集客・交流の中核施設の一つ**として位置付け、**多様な利用シーンの実現や収益モデル**の検討が必要となった
- ✓本市では、2018年より富山市総合体育館の民間事業化に向けた検討をスタートし、民間事業者への公募型サウディング調査や民間活力導入可能性調査等を実施してきた
- ✓さらに、2022年10月にプロバスケットボールの当時Bリーグ1部所属の富山グラウジーズが2026年に創設される**Bプレミアへの参入**の意志を表明したことで、厳格化されるBリーグホームアリーナ検査要項におけるアリーナ基準への対応も含めて、本施設の運営のあり方についてさらなる検討が必要となった
- ✓そこで本市は、施設の**収益化と長寿命化**を実現し、**新たなまちづくりの中核施設として賑わいを創出する拠点**とすることを目的として、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI法)に基づくR(Rehabilitate)方式及びPFI法第2条第6項に定める公共施設等運営権(コンセッション)方式による事業として実施した
- ✓本事業は、既存の総合体育館の改修と運営のコンセッションを一体で実施する**日本初の事業**となる

スタジアム・アリーナ等における新しい官民連携の在り方に関する意見交換会

■ 2023年3月20日にスポーツ庁長官との意見交換

✓富山市総合体育館における民間活力導入の検討にあたり、スタジアム・アリーナ改革に取り組んでいるスポーツ庁長官と富山市長が、官民連携について意見交換を実施



新しい官民連携スタジアム・アリーナ等による地域活性化の全体像

資料 1



スタジアム・アリーナ等における官民連携の重要性①

スポーツで
誰もが「ともに」
「つながる」
楽しさを感じられる
社会



様々な人々・組織が
「あつまり」
「ともに」
スポーツの展開に
取り組む社会

- スポーツ施設の中でも、スタジアム・アリーナは地域の賑わい拠点となり、地域経済の活性化や地域課題の解決に貢献する役割をもつ。
- 地域における産業としてのスポーツは、飲食・サービス、小売、建設、旅行、医療・福祉など、地域経済の様々な分野を活性化する可能性；特に、収容人数の多いスタジアム・アリーナはそのために必要な基盤である。
- スタジアム・アリーナの収益性・魅力の向上においては、民間の資金・ノウハウを活用したPFI・コンセッション活用も有効な手法の一つ。

スタジアム・アリーナ等における官民連携の重要性②

スタジアム・アリーナの整備と運営をパッケージで民間事業者に委ねることは、

- ✓ 民間の創意工夫を活かした稼ぐ力のある魅力あふれるスタジアム・アリーナの実現
- ✓ 施設整備費を圧縮し、後年度の管理運営を含め、公費負担を軽減

することができる可能性

＜スタジアム・アリーナ改革の目指す姿＞

「マインドチェンジと官民連携」



「スマート・ベニュー®」
(株) 日本政策投資銀行

基本方針

I 新たな価値の創造

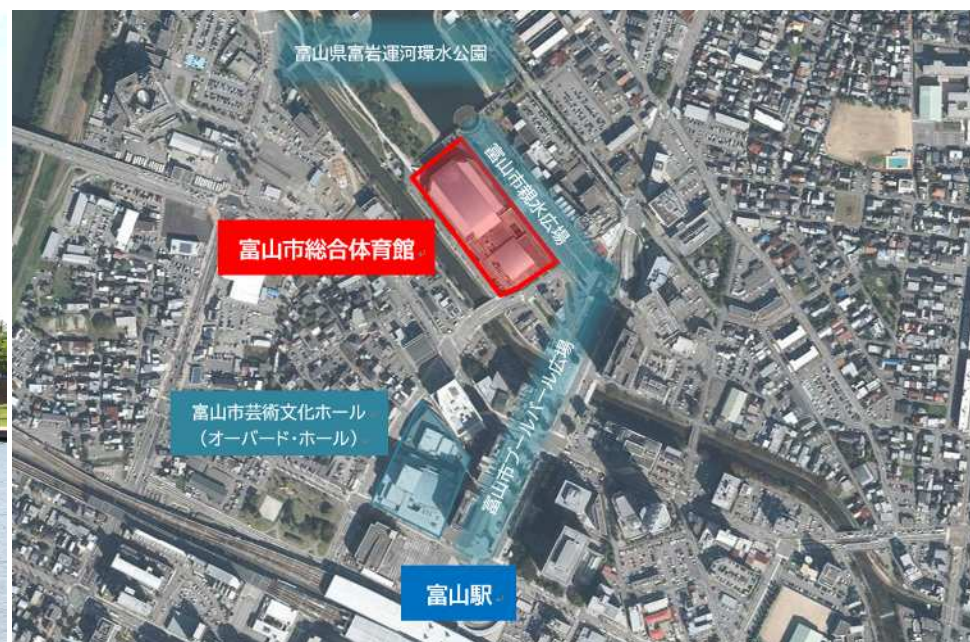
市民スポーツの中核施設としての質の向上に加え、プロスポーツをはじめとした観るスポーツやコンサート、コンベンション等これまで以上の興行開催による市民へのエンターテインメントの提供という新たな価値や魅力を生み出す

II 持続可能な施設へ

Bリーグをはじめとした魅力的なコンテンツや運営権を活用した多様な手法により収益化を図り、施設の長寿命化に向けて施設自らが稼ぐことで財政負担の軽減を図り、持続可能な施設運営を目指す

III まちづくりや地域経済への寄与

生まれ変わりつつある駅北エリアにおいて「生まれ変わる施設」として賑わいを波及させ、周辺施設や関係機関等と連携した新たなプロジェクトの展開によるまちづくり、さらには地域経済の活性化を促す



事業スキーム

■PFI-R + 公共施設等運営権(コンセッション)方式

✓本事業の実施にあたっては、施設の収益化と長寿命化を達成するため、**設計・改修と維持管理・運営を一体事業**として、民間事業者のノウハウや創意工夫を最大限に活用していくこととした

✓これにより、市民サービスの質の向上を図るとともに、民間経営による収益の最大化を図り、本市の財政負担の軽減に繋がることを目指す

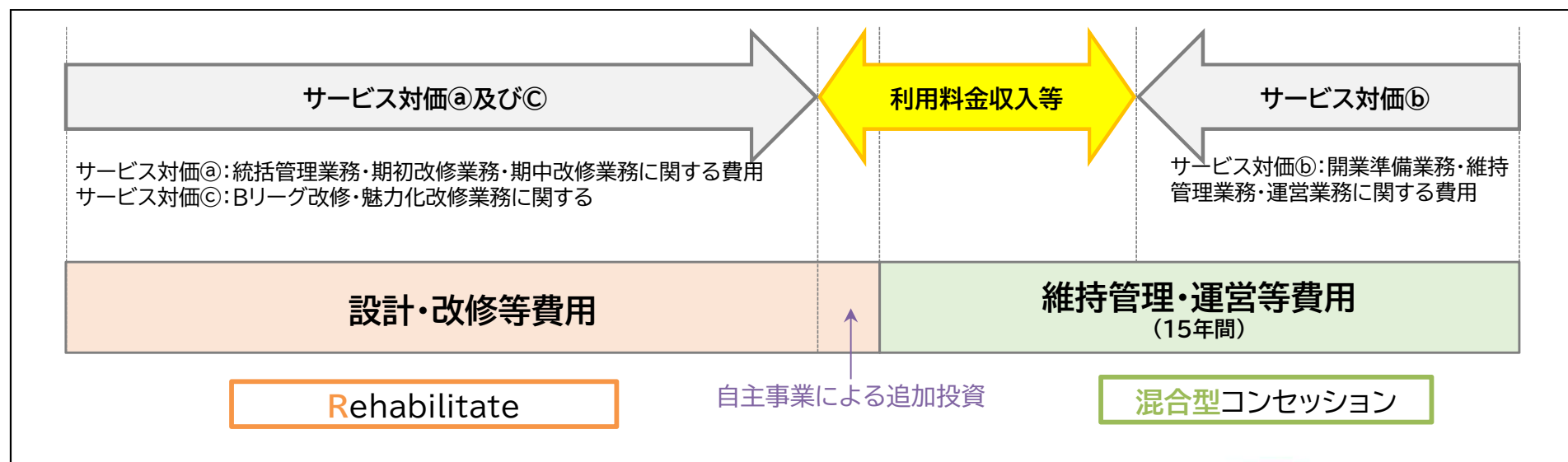
R方式

PFI法に基づき、事業者が自らの提案をもとに施設の設計・改修を行う



公共施設等運営権(コンセッション)方式

PFI法第2条第6項に定める、施設の所有権を市が保有しつつ、事業者に運営権を設定し、事業者が利用者や観客に対して多様なサービスの提供を行う
事業者の使用許可権限を付与するため、地方自治法第244条の2第3項に基づき、公の施設の指定管理者制度を併用する



コンセッション方式によるメリット

■本事業におけるコンセッション方式採用によるメリット

✓民間事業者の考え方や市場、ニーズを反映させた柔軟な料金設定や予約ルールの構築が期待できる

⇒**利用料金の変更は、公共への届出により可能**となり、事務の効率化が図られる

⇒市民利用の利用料金は、過度に高額とならないよう条例による上限を設定することでコントロールし、公の施設としての性格を維持することが可能

✓**法により担保された余剰床や壁面等を活用した収益事業が可能**となり、非貸館収入の増加が期待できる

⇒市の想定を超えるネーミングライツを実現した

(公の施設を活用しての収益事業であることから、プロフィットシェアを導入し本事業へ還元する仕組みを構築)

⇒**PFI法に基づく私権の設定(賃貸借契約等)**により、施設・設備の第三者への長期転貸等の柔軟な行政財産の利活用が可能

✓**運営権に対し担保設定が可能**なことや自由度の高さから収益性が向上することで、施設のバリューアップを図るための投資が期待でき、**事業が長期間に渡る**ことから、数年前から企画される大規模な興行等の誘致が可能となる

⇒民間事業者のノウハウを活用した質の高い、良好なサービスを享受

✓基本的に運営期間中の故障等のリスクを事業者が負うことや施設運営状況が収益に直結することから、その影響を最小限に抑えるための効率的・計画的な改修や修繕が期待できる

⇒不要な設備更新を避けられ改修費が圧縮されたうえ、設備の長寿命化が図られる

⇒**業務の一環として、建物の改修や更新が実施可能**

✓施設運営に留まらず、**長期の事業期間**を要するエリアマネジメントへの取組みも可能となり、地域の価値向上や経済活性化が期待できる

⇒富山市親水広場のほか周辺施設との一体イベントの開催や周辺エリアマネジメント団体と連携した賑わいづくりの実現

最大の課題『公共性を残したまま収益性を求める』

■財政的かつ物理的に持続可能な施設への変換

✓公の施設としての**市民利用を確保しながら公の施設自らが稼ぐ**といった**公共性と収益性が共存しバランスの取れたサービス**となるよう提案を求めた

✓市民利用については、条例等でコントロールし、**公の施設としての性格を維持**することとした

✓本施設の収益性向上に資するため、利用料金の設定、市からの要望による減免廃止、開館日・開館時間の設定、諸室用途の変更、これまでにない非貸館収入等を見込める多種多様な自主事業を可能とした
(公の施設を活用しての収益事業であることから、プロフィットシェアを導入し本事業へ還元する仕組みを構築)

✓本施設は、富山市公共施設等総合管理計画において、「**市有施設として存続**」させる**施設**に位置付けられており、今後50年を見据え、長く安全に使用できるよう寿命化に資する適切な改修や維持管理となる提案を求めた

✓本事業終了後の次期修繕計画立案業務(劣化診断調査業務含む)を必須業務とし、事業期間のみならずその先を見越した施設管理を求めた



富山市公共施設等
総合管理計画

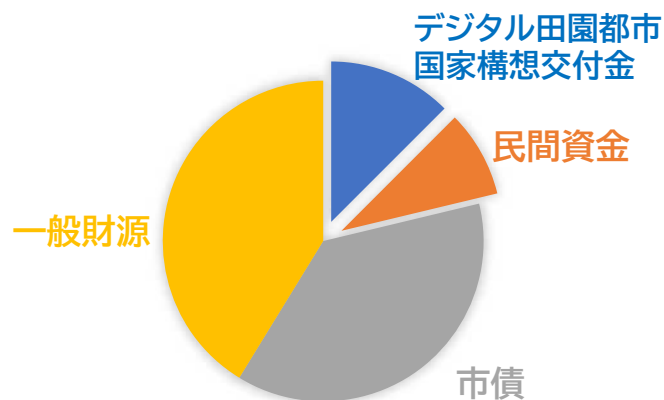
富山市



事業費

■整備費と管理運営費を含め総事業費は約81億円 ※事業費の大部分は長寿命化に係る費用

主な財源内訳	金額	備考
デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生拠点整備タイプ)	10億円	2024年8月に交付決定
民間資金 ✓企業版ふるさと納税 ✓寄附	5～10億円程度	2022年10月に富山グラウジーズより、ホームアリーナとしての継続使用ならびに新B1アリーナ基準を満たすための施設改修の要望に加えて、新B1リーグ基準適合に必要な施設改修費は、富山グラウジーズが中心となり、経済界等と連携し、市内外の企業や団体等に対して、本市への寄附を働きかけると申入れがあった 市は、2023年3月に企業版ふるさと納税に係る富山市まち・ひと・しごと創生推進基金を創設し、寄附等の受入れに向けた対応を実施
市債	30億円程度	本施設は、富山市地域防災計画において、災害対策基本法に基づく指定緊急避難場所(洪水時は除く)及び指定避難所に指定されており、特定天井改修に係る費用に、緊急防災・減災事業債を活用 その他、有利な起債を活用予定



ステークホルダーの取扱い

■地元スポーツクラブ(富山グラウジーズ)・現指定管理者(富山市スポーツ協会 ※本市外郭団体)・元設計・元施工
✓各ステークホルダーの公募上の取扱いが大きな論点となり、サウンディングやヒアリング、他市の先行事例を参考に丁寧に検討を重ね、加えて、公募上の公平性を担保するため、最大限留意し事業を推進した

✓富山市総合体育館をホームアリーナとするBリーグ所属の富山グラウジーズが、運営への意志を示す中で、クラブの応札・応募を制限するとクラブのコンテンツホルダーとしての運営ノウハウを活かす機会を発注者として失うこと、選定されたSPCとクラブとの業務交渉に支障が生じる恐れがあったことから、**富山グラウジーズを本事業へ参画可能な民間事業者候補の1者として位置付けた**

✓サウンディングの状況では、複数の事業者から関心が集まり、クラブの動向に関わらず競争環境が生まれる可能性があった

✓結果として、富山グラウジーズを構成企業とするコンソーシアムが選定された



✓市とスポーツ協会の2者協議を複数回実施し、スポーツ協会の意向を確認しながら、本事業の収益性向上に対し民間事業者のノウハウを最大限に活用するため、**富山市スポーツ協会の運営業務への参画は条件とせず**、選定されたSPCと協力・連携しながらスポーツ振興を図ることとした

✓本施設の現状を熟知しているため、各検討段階に応じて多岐に渡る協力を依頼した

✓元設計業者や元施工業者が優位とならないように、市が保有する情報はすべて開示した

✓サウンディングやヒアリングの際に、情報の偏りが起こらないよう十分配慮した

事業者提案 とやまアリーナコンセッション株式会社

事業方針

B1チーム×先進ノウハウ×地元ノウハウが創る まちの躍動・新たな感動が生まれる新時代アリーナ

富山を代表するプロスポーツチーム、多数のコンセッション事業実績を有する代表企業、官民連携の実績豊富な設計企業・地元維持管理企業が参画し、B1チーム×先進ノウハウ×地元ノウハウを備えたコンソーシアムを組成しました。

3つのRで示すコンセプトのもと、高品質な観戦・鑑賞体験で生まれる新たな感動と賑わいをまちの躍動へと波及させる、新時代の“夢のアリーナ”を実現します。

コンセプト

Reborn (再生)

スポーツを中核とした新たな賑わいと 高品質な体験価値を提供する施設

- 既存施設を生かした新 B1 リーグ基準対応アリーナ
- 構成員のプロスポーツチームによる主体的な運営・維持管理
- 市民の日常利用・健康増進を促進する各種プログラム

Refined (洗練)

収益性の向上・財政負担の軽減により 持続可能性を向上する施設

- 施設空間・ICT 設備を利活用した収益性の最大化
- 積極的な長寿命化や設備再利用による財政負担軽減
- 維持管理のしやすさや更新性を考慮した改修計画

Relay (連携)

市民・地元団体・周辺施設と連携し 駅北エリアの活性化を推進する施設

- 周辺エリアマネジメント団体等と連携した賑わいづくり
- 親水広場ほか周辺施設と一体となったイベント開催
- 駅北エリア全体のイメージ向上を推進する PR 活動

事業者提案 とやまアリーナコンセッション株式会社

■実施体制

全国の官民連携で挑戦を続ける企業がバックアップ

- コンセッションをはじめとした**最新の官民連携手法**を熟知した総合インフラサービス企業の代表企業がノウハウを提供し、**安定した事業運営**を行います。

地域の経営資源とネットワークを有する地元企業

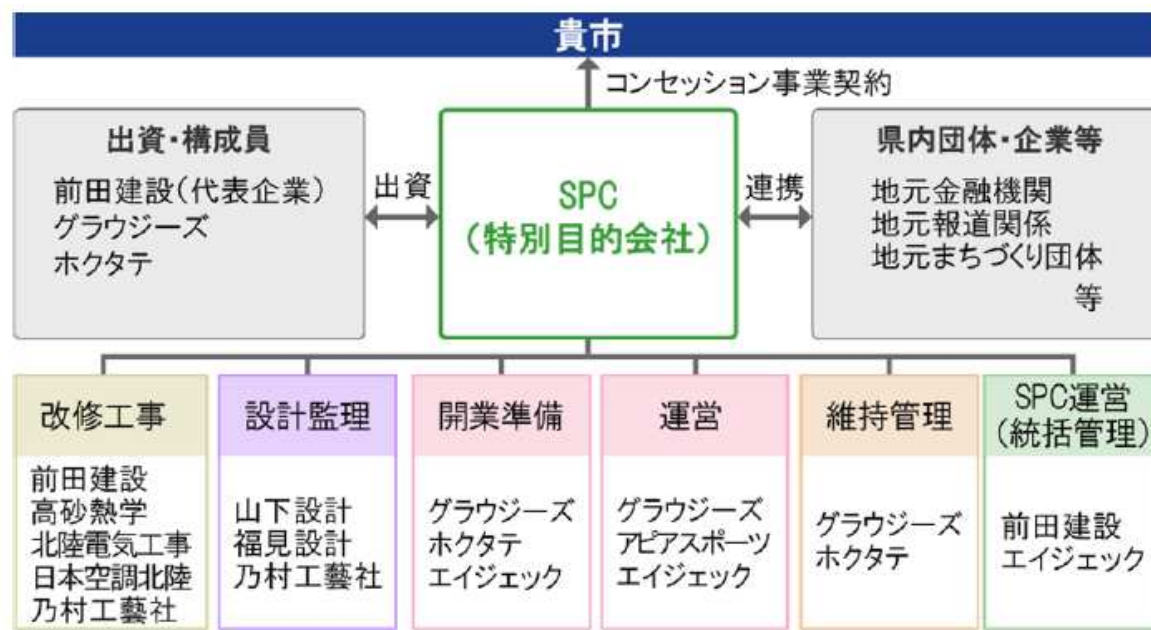
- 地元を代表するプロスポーツチームと北陸地域で**トップクラス**の官民連携実績を持つ地元維持管理企業が、新たな価値創造と持続可能な施設運営、本施設を含む駅北エリアの地域経済活性化の中心となり、事業に取り組みます。

■主な改修

- ✓観客席5,000席に増設(新B1アリーナ基準)
- ✓スイートルーム・ラウンジを新設
- ✓洋式トイレの増設
- ✓各階に多目的トイレの配置・車椅子対応のエレベーターの新設

■主な特徴

- ✓移動観覧席・固定席・スイート席・立見席等の多様な観覧スタイルの提供
- ✓スポーツ用品の販売・レンタル
- ✓月極のロッカー・ランナー用コインロッカーの設置
- ✓子育て世代向けに授乳室の設置
- ✓多様な教室プログラム・インクルーシブなスポーツイベントの開催
- ✓付帯設備を含め施設の長寿命化に資する予防保全を基本としたメンテナンス
- ✓AIロボットやICTを活用し省人化・省エネルギー化した維持管理
- ✓広告サイネージの設置によるスポンサー収入等の非貸館収入の増加



事業者提案 とやまアリーナコンセプション株式会社



プロスポーツ利用時の第1アリーナイメージ

事業者提案 とやまアリーナコンセプション株式会社



ラウンジカフェの使用イメージ

Bリーグ・プレミア

■2024年10月17日に富山グラウジーズ「Bリーグ・プレミア」参入決定

✓Bプレミアライセンス継続審査基準

I 平均入場者数4,000人以上達成

II 売上高9億円以上

III 新B1アリーナ基準を満たすアリーナ

(観客席5,000席以上、VIPルーム、トイレの整備等)

✓基準が未充足であれば、上限5,000万円の罰金が科せられ、3シーズン連続で未達の場合には、降格となる

✓競技成績による昇降格制はなし



TOYAMA GROUSES



朝刊で詳細します

この紙面は「webunプラス」でもご覧いただけます <https://webun.jp>

2024 10/17 木曜日
発行所 北日本新聞社 〒930-0084
富山市安部町1-14
電話 076-845-3300 (代表電話)
© 北日本新聞社2024

富山「Bプレミア」参入

26年開幕条件クリア

バスケットボールのBリーグは17日、2026年にスタートする新トップカテゴリー「Bリーグ・プレミア」(Bプレミア)の参入22クラブを発表し、富山グラウジーズが選ばれた。

参入条件は、1試合平均入場者4千人以上▽5千人以上収容可能な客席などを備えたアリーナの用意▽売上高9億円以上の3点。

富山グラウジーズの高堂孝一社長は、同体育館で記者会見し「富山一丸で皆さんが支えてくれたおかげ。Bプレミアに恥じないチームとして成長していきたい」と喜びを語った。

26年からはBプレミアの下に、B2に相当する「Bリーグ・ワン」(Bワン)、「B3に相当する「Bリーグ・ネクスト」(Bネクスト)」が続く。成績による昇降格はなく、売上高や入場者数などに基づくライセンスで分類する。

富山グラウジーズは00年とやま国体に向けた成年男子の強化チームを母体として1998年に設立。2006年からbjリーグに参入し、15〜16年シーズンに準優勝した。16年秋にスタートしたBリーグでは、B1に参入。昨季は4勝56敗で、24チーム中最下位でB2に降格した。

富山グラウジーズは2023〜24年シーズンに平均入場者数4180人を記録し、富山市総合体育館は25年4月から改修して条件を満たす。売上高も9億円を達成した。

富山グラウジーズの高堂孝一社長は、同体育館で記者会見し「富山一丸で皆さんが支えてくれたおかげ。Bプレミアに恥じないチームとして成長していきたい」と喜びを語った。

26年からはBプレミアの下に、B2に相当する「Bリーグ・ワン」(Bワン)、「B3に相当する「Bリーグ・ネクスト」(Bネクスト)」が続く。成績による昇降格はなく、売上高や入場者数などに基づくライセンスで分類する。

富山グラウジーズは00年とやま国体に向けた成年男子の強化チームを母体として1998年に設立。2006年からbjリーグに参入し、15〜16年シーズンに準優勝した。16年秋にスタートしたBリーグでは、B1に参入。昨季は4勝56敗で、24チーム中最下位でB2に降格した。

購読申し込みは 0120(88)3748 webunプラス <https://webun.jp>

ネーミングライツ

■2024年12月11日にネーミングライツ・パートナーと愛称決定

- ✓ネーミングライツ・パートナーは、YKK AP株式会社(東京都千代田区)
- ✓契約期間は、2026年10月1日(公共施設等運営権設定後)～2031年9月30日の5年間
- ✓施設名称は、YKK AP ARENA／YKK APアリーナ

YKK AP ARENA



✓本ネーミングライツは、市外の企業がパートナーであり、市の想定を大幅に超えるネーミングライツ料となり、官民連携事業とした成果のひとつとなった

事業スケジュール

時期	内容
2023年7月	富山市基本的な考え方の公表
2023年9月	富山市総合体育館等の公共施設等運営権に係る実施方針に関する条例制定
2023年10月	実施方針の策定、公表
2023年12月	特定事業の選定、公表
2023年12月	入札の公告、入札説明書等の公表
2024年6月	落札者の決定、公表
2024年6月	基本協定締結
2024年7月	事業仮契約締結
2024年9月	事業契約締結、公表
2026年9月	総合体育館の改修工事完了
2026年10月頃	運営権設定、公表
2026年10月頃	供用開始
2039年9月	事業契約終了

